

# 2022 年度学校評価結果と 2023 年度重点目標

2023 年 3 月

恵泉幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

### 【教育理念】

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935 年（昭和 10 年）に設立した幼稚園です。幼い時に、自分が愛され、守られていることを感じることができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに育ちあう園であり続けます。

### 【教育方針】

- ・意欲のある子ども・・・一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る
- ・思いやりのある子ども・・・ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく
- ・感性豊かな子ども・・・自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる
- ・感謝できる子ども・・・祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

## 2. 2022 年度の振り返りと 2023 年度重点的に取り組む目標・計画

### 【2022 年度、重点的に取り組む目標】

- ・祈る心を大切にする。
  - － 大切な時を共に過ごす －
- ・集中して話を聞く
  - － 園生活の中で、身体を思いっきり動かす遊びと、静かに集中して話を聞く時間のバランスを大切にすることを通して、めりはりのある態度が身につくようにする －

### 【2022 年度、重点的に取り組む目標】の振り返り

- ・祈る心を大切にする
  - 子どもたちは毎日の礼拝の中で祈りを唱えます。習慣として祈りの時を持つということは、たとえ短い時間であっても、ざわざわとした日常生活から心が開放される瞬間となります。神さまを意識しないとしても、何か大きな力が自分を守ってくれているという安心を感じることができるのではないのでしょうか。自分は大きな力によって守られ、愛されている存在なのだということを、祈りを通して身につけた子どもたちは、教師の言葉かけによって誰かのためにお祈りをする人になっていきます。まずは家族、先生、そして仲の良い友だち。その後、クラスで病気のお友だち、何か困っているお友だちのためにも祈ることを身につけます。礼拝で声を合わせ「アーメン」と唱える時、祈りが教育方針の一つである「思いやりのある子ども」へと繋がっていることを実感しています。

## ・集中して話を聞く

子どもたちは毎日「外遊び」の時間を楽しみにしています。広々とした園庭をのびのびと走り回る姿を見ることは気持ちの良いものです。子どもにとっての遊びは学びです。遊びからたくさんの学びを得るために大事なことは「集中して話を聞く」ことです。集中して話を聞くことにより、遊びがより楽しくなった子どもたちは、その経験から、やがて集中して話を聞くことの大事さ、楽しさを理解し身につけていきます。子どもたちが集中して話を聞くために、教師は学年に応じていろいろな工夫をしています。クラスで決まっている言葉を掛けたり、ピアノで合図を送ったりして、話を聞く態勢を整えます。話を聞いた後に楽しさが待っていることを知っている子どもたちは、聞くことに集中できるようになります。このような動と静のバランスが子どもたちに心地よい時間を与え、遊びも話を聞く時間も集中できるようになっております。

### 【2023年度、重点的に取り組む目標】

- ・自己肯定感の基礎を作る
  - 一人ひとりの子どもたちが自分らしさを発揮できる居心地の良い場所を見つける —
- ・想像力を豊かに育む
  - 子どもの声に耳を傾け、発想の豊かさを伸ばしていく —

### 【2023年度、重点的に取り組む目標】の設定について

- ・自己肯定感の基礎を作る

幼児期に自分は愛され、受け入れられている存在であることへの自覚と経験は生涯の支えとなるものです。誰もがかけがえのない存在であり、その人にしかできないことを神さまから託されています。子どもたちにとって、自分にとって居心地の良い場所を幼稚園で見つけることで、幼稚園に通うことが楽しみになり、幼稚園を好きになり、自分のことが好きになっていきます。それでは、居心地の良い場所とは何でしょう。幼稚園にはいろいろな遊具や絵本、図鑑があります。広い園庭もあります。友だちもたくさんいます。誰と何をしている時が自分にとって楽しいのか、経験を通して知っていきます。やがて、そこが居心地の良い場所となります。しかし、なかなか見つからない子どももいます。そんな時、無理に何かを与えたり、教え込むのではなく、子どもの言葉や行動から居心地の良い場所を見つけられるようなヒントを与えていきます。居心地の良い場所を見つけて自分を好きになった子どもたちは、やがて自分と同じように友だちを好きになり、先生への信頼を篤くします。失敗をしても戻れる場所があれば、自信を失わず、自分を好きであり続けることができます。幼児期にこの繰り返しを経験させ、自己肯定感を育み維持することの基礎を身につける保育をめざします。

- ・想像力を豊かに育む

一つの行事が終わった後で、子どもたちは達成感からまだその余韻に浸っていることがあります。そんな時、子どもたちからいろいろな提案が持ち上がることがあります。例えば、運動会でやったダンスをあそこでもやろう、同じではなくて形を変えて、私が振付を考えるよ、僕はセリフをつけるよ、などです。子どもたちの想像力はどんどん膨らんでいきます。子どもたちの声に耳を傾け、伸びていく芽を摘まないように子どもたちを信頼し応援していきたいと考えております。子ども同士の話し合い、協力、時には諦めも経験となり、その結果さらなる想像力へと広がることがあります。これから将来子どもたちの進む道

は「正解のない世界」と言われています。仲間と協力し合って無から有を生み出していく過程を、子どもと共に歩いていける教育者はとても幸せであると思います。また、想像力は他者の考えを想像し対応することにも繋がりますので、教育方針の一つである「思いやりのある子ども」を目指すことにもなります。幼児期だからこそ生み出せる、想像力をより豊かに育む保育を、日々の活動を通して実践していきます。

### 3. 学校評価結果の取組み

#### (1)

##### 《評価項目》

「おうちの方の学校評価」を実施し、評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。

##### 《取り組み状況》

意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。

コロナ禍での諸活動の制限について、おうちの方の理解への感謝と今後の方針を伝えました。

#### (2)

##### 《評価項目》

教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。

##### 《取り組み状況》

各クラスで問題点がある場合は、学年や園全体で共有し解決に努めています。

教員に必要な研修時間を確保していきます。